「つや姫」栽培管理情報第３号

H26.6.12　農業技術センター技術普及部

「つや姫」の生育状況等

○気温は５月第５半旬から高く推移しており、最高、最低気温ともに高い状況でした。降水量は平年よりかなり少ない状況が続いています。日照時間は５月は多く推移しましたが、梅雨に入り、６月第１半旬は少ない状況となっています。なお、降水量は５月第３半旬までは平年より少なく推移し、５月全体の降水量は平年の 48%となりました。

○田植えから一ヶ月以上過ぎました。水をためっぱなしのほ場、ガス湧きによる下葉枯れ、根傷みが目立ちます。

○今のところ目立った病害虫の発生はありません。

■　当面の管理ポイント（6 月中旬～7 月上旬）

□間断灌水と中干しの徹底

弱った稲体の健全化

適正な生育量の確保（過繁茂厳禁）。

具体的な対策

□間断灌水と中干しの徹底

○間断灌水、中干し等の水管理を徹底し、①根傷みにより弱った稲体の改善を図ること、②有効分げつ確保後は中干しを徹底し、無効分げつの発生を抑えて、適正な生育量とすることが重要です。

【間断灌水】

○有効茎数（350 本/m^2）を確保するまでは間断灌水に努め、新鮮な水の入れ替えやガス抜きを行い、根傷みを防ぐと共に、稲体の健全化を図りましょう。

【中干し】

○有効茎数が確保できたら、速やかに中干しに移りましょう。

中干しの期間は、田面に小さなひび割れを生ずるまでの５～７日間とします。

無理な中干しは、かえって根を傷めますので、生育状況、土壌条件によって強さを加減しましょう。

○中干し終了後の潅水は、走り水を１～２回繰り返してから徐々に潅水しましょう。

急に潅水すると、根傷みして下葉が枯れ上がり易いので気を付けて下さい。

○用水不足が懸念される地域も少なくありません。こうした地域では、中干しが徹底しにくいので、その代わりに浅水や飽水管理（足跡に水が残る程度）を一定期間行うようにしましょう。

水稲作況試験調査結果

○「つや姫」移植後 31 日（農業技術センター作況試験ほ場）

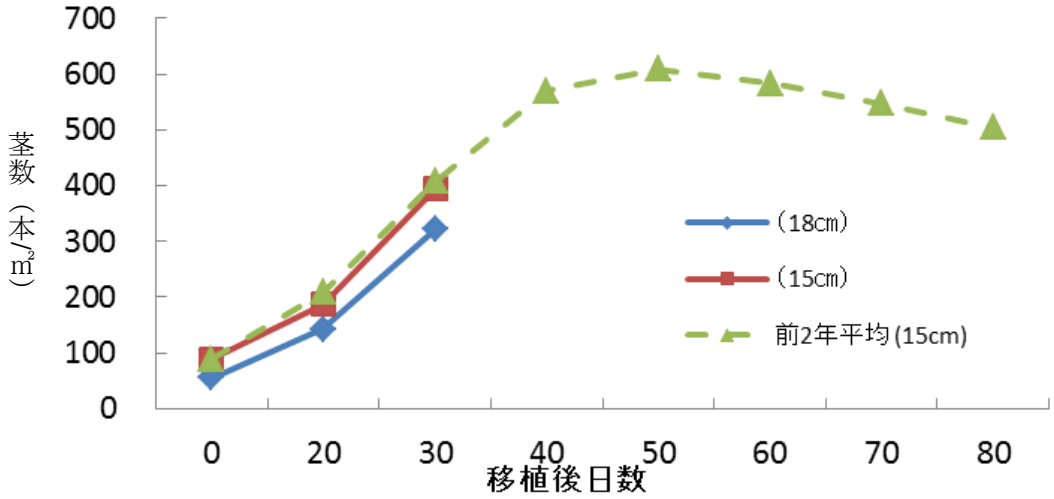

図　茎数の推移

写真１　株間 15 ㎝

写真２　株間 18 ㎝